

社民・福島氏「自民草案は国民を縛る」

の分からない概念で基本的な人権を制限できる。憲法は政府を縛るものだが、これ（自民党草案）は国民を縛る憲法だ」

安倍晋三首相が憲法96条改正を参院選の争点に掲げたことで、国会内で息を潜めていた護憲派の動きが活発化している。

「『公益』という訳

もししていない。しかも（いまは）経済についての集中審議ではないのか」

「憲法（論議）は歴史と将来を見ながらやるものであり、偏狭なナシヨナリストがリーダーでやるのは反対だ」

「草案は国会で発議

が「個人が人権を主張する場合に他人に迷惑をかけてはいけない。それを明示的に規定しただけだ」と答弁。「自民党は憲法改正草案を

自信を持って提出している。（国会の）憲法審査会で議論していたきたい」と締めくくった。福島氏は同日、民主、みんな、生活、共産、社民など野党の有志が設立した議員連盟「13条を考える会」のメンバーで、予算委質疑は護憲派結集宣言の色を帯びた。

民主・直嶋氏「96条だけの議論はいかがか」

同日夕に開かれた憲法96条改正に反対する超党派の議連「立憲フォーラム」の設立総会。講演した藤井裕久元財務相は緊迫するアジア

情勢を踏まえながら、過熱する一方の憲法改正論議に異を唱えた。議連は民主党を中心に国会議員35人が参加した。

その民主党は改憲派、護憲派が入り乱れ、党内論議が複雑だ。同日午後の憲法調査会総会では参院選で争点となる憲法96条の見解に

ついて、直嶋正行副代表が「96条だけ切り取って議論するのはいかがか。改正後の姿もセツトで議論すべきだ」と拙速な議論を戒めた。「96条改正反対で取りまとめたいが、同条の議論だけが先行すると、党内はまとまらなくなる」。同党幹部はそう打ち明ける。

首相が設定した争点をめぐり野党の知恵比べが続く。